

演劇のプロデューサー・演出家
ってホントはどんな仕事？
どうやったらなれるの？



演劇のプロデューサー・演出家の
仕事についてご紹介します！

どんな仕事？

演劇と言うのは生身の人(俳優)が商品です。その商品をお客様にいかに提供するかを考えるのが演出家です。そして、もっとも素敵な商品を調達するのがプロデューサーの仕事です。良い商品(俳優)を探し出し、契約し、素晴らしいデザイナーにディスプレイ(舞台美術)を依頼し、誰もが欲しくなるラッピング(衣装)をつける作業は、とてもワクワクします!! そしてお客様が店内に入ってきたところから、どんなBGMで盛り上げワクワクしていただくか。ライトをどんな色にすれば商品に出会ったときに素敵☆と思ってもらえるのか。それらを各スタッフと共に緻密に構築していく時の集中力と、それを手にとって頂いて、ここから買って良かったと笑顔になってくださる瞬間を見るときの感動は、総合芸術ならではの魅力です。

この仕事をやっていて良かったと思えることは？

プロデュースという仕事は、演劇だけでなく、いかなる職業にも役立つスキルです。人と人を結びつけ、そして新しい事を皆で考え出していく歯車の回し役でもあるので、やりがいもあります。起業家としての応用にもつながりますし、企業の新規事業のリーダーを務めることもできるでしょう。まずなんといっても、人が大好きになりますよ☆演出家は、人から(俳優から)、本人も気づいていない素敵な魅力を引き出していくお仕事です。ですからこれもまた、演劇だけにとどまらずコンサルティングやマッチングなど人の魅力を他者に伝えたり、紹介したりすることにもむいているスキルをもった職業だともいえますね。長い演劇活動の中で、それを鍛え上げることができたことが、自分にとって大きな人生のプラスになっていると思います。一番鍛えられたのは、多くのスタッフと舞台の幕を上げるという目標達成に向けて、どんな困難な壁があっても「やり遂げる」という力です。

どうやってその仕事についたの？

私の場合は小学校の頃、友達がかメラに憧れて写真を撮っていたときに、当時は珍しかった8ミリカメラという映写機で上映するための動画を撮るカメラに憧れてそれを手に入れ、夢中になって蒸気機関車とかを撮りに行っていました。それが高じて映画の専門学校に入学し、演出を勉強して、映画の製作会社、テレビドラマの制作会社等で働きました。どうしても自分で作りたくなってしまい、友達とアルバイトをして制作費を貯めて、16ミリ作品を作ったこともあります。その後仲間と演劇活動をはじめ、現在に至っています。すべてオリジナル作品で30年で20本近くの作品を上演してきました。

Q&Aで疑問を解決!?

Q1: 演劇のお仕事は特別な才能がある人しかできないというイメージですが、実際はどのようなのでしょうか？

A1: 私もチャレンジしているくらいですから、特別な才能は必要ないと思いますが(笑)

ただ、やはり創作することが好きでないと、ただでさえ作るにあたって壁の多い世界ですので、途中で嫌になってしまうのではないのでしょうか？何の仕事もそうだと思いますが、途中で諦めてしまっははその仕事の本質を見ないまま、やはり自分には合わなかったんだと思ってしまうような気がします。好きだったら、才能があるかないかではなく、とことん突き詰めてみてはいかがでしょうか？結果として、やはり合わないという結論もありだと思えます。登山も頂上に登らないと、「これを見るために登ってきたんだ。」とは気づかないものですよ。ただし、途中で引き返す勇気もいります。人生もお仕事も同じような気がします。

Q2: 若者のテレビや映画離れが問題になっていますが、演劇界の将来性はどのようなのでしょうか？

A2: 人々は自分の多様なニーズに応えられるような媒体を求めて時代を流れて行きます。ところがどんなにパソコンが発達してもテレビが発達しても、人間本来が持っている感性のDNAは、まるで何かを渴仰するように生きているものを求めると思うのです。どんなに電子書籍が普通になっても、自分の家の本棚にお気に入りのハードカバーの書籍を置いておきたいですよ。犬のロボットは興味で購入することはあっても、生きているペットに代わる事はないのと同じです。最近またレコードの音色に懐かしさを覚えて、若者の間でもプレイヤーが売れていると聞いています。舞台は時代を映す鏡ですし、生身の俳優さんの息づかいや苦悩、喜びと一緒に体感できる素晴らしい芸術です。どんなに電腦社会になっても、生きた感性に触れたいと思う人間の本能は、これから先も生き続けるに違いないと思っています。

勉強方法は？

一番やりやすい勉強方法は、自分の好きな演出家の上演作品を沢山観る事です。そして、そこに出演している気になった俳優さんの、違う演出家の作品を観て、その違いを研究することだと思います。座学としては、古今東西の古典と言われる作品は少なくともすべて読破することをお勧めします。必ず役立ちます。さらに、お金に余裕がなくても一流と言われる作品を観に行くことも忘れてはいけません。私も若い頃は必死でバイトして貯めたお金で、イギリスのコベントガーデンの引越し公演のオペラを観にいたり、20世紀バレエ団の舞踏を観にいたり、ベートーベンの室内管弦楽団の演奏を聴きに行ったりと、自分の五感を研ぎ澄ませる素敵な時を自ら作りました。一流に触れることは自分の感性を大きく引き上げる大切な勉強です。この様に書いているだけで、またオペラを観にいきたくなります☆